

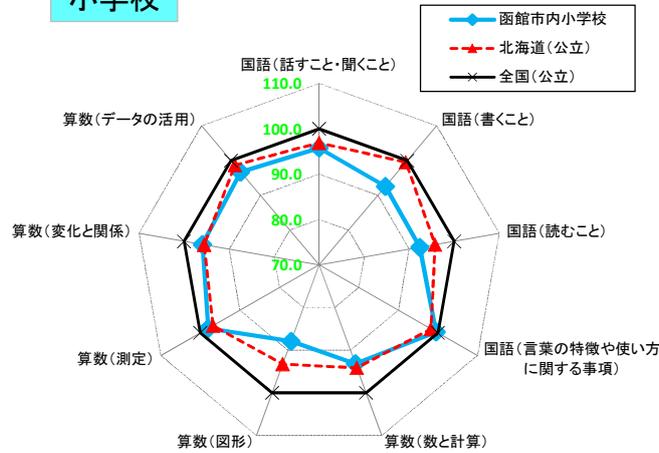
■函館市内の状況及び学力向上策（小学校数：41校、児童数：1530人）（中学校数：20校、生徒数：1499人）

【教科全体の状況】

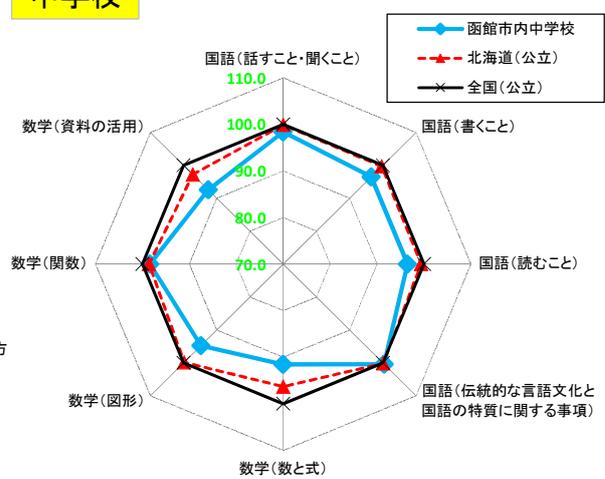
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	62	64
算数・数学	66	54

小学校

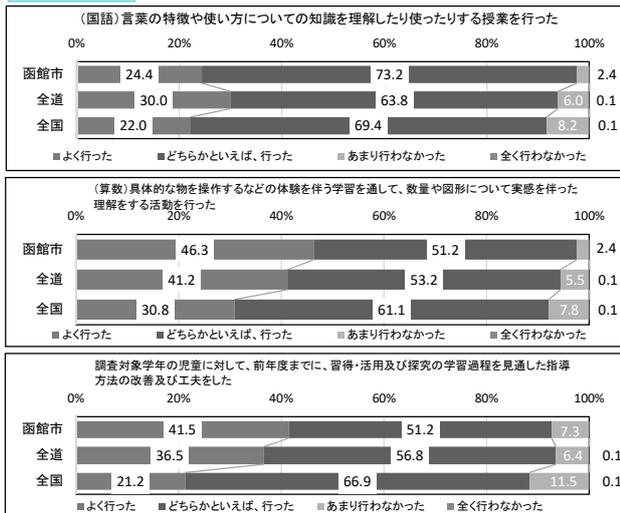


中学校

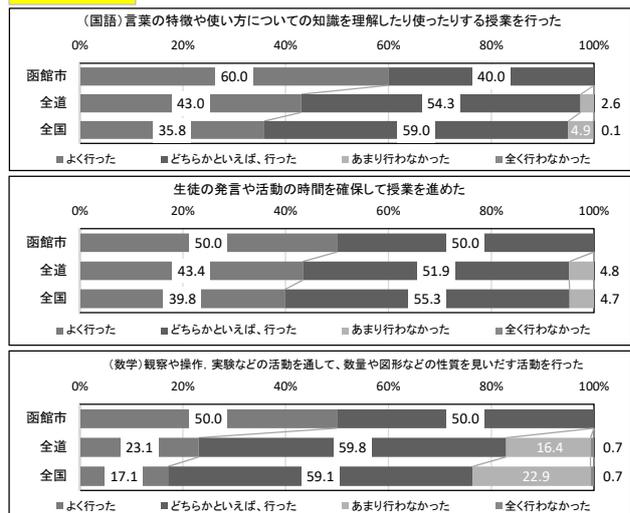


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国と同程度の平均正答率となったと考えられる。

算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行ったことにより、「変化と関係」の領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしたことにより、「測定」の領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校

国語において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業をよく行ったことにより、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国と同程度の平均正答率を上回ったと考えられる。

生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めたことにより、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で全国と同程度の平均正答率となったと考えられる。

数学の授業において、観察や操作、実験などの活動を通して、数量や図形などの性質を見いだす活動を行ったことにより、「関数」の領域で全道と同程度の平均正答率となったと考えられる。

【函館市の学力向上策】

- ◎ 図書管理システム等の読書をする環境の整備及び学校司書の配置の拡充による読書活動を推進
- ◎ 全ての市立学校に導入しているコミュニティ・スクールの取組と合わせた小中が連携した教育活動の推進
- ◎ 児童生徒や教員へのICT機器の操作の支援などを行うGIGAスクールサポーターを配置し、1人1台端末の活用を推進

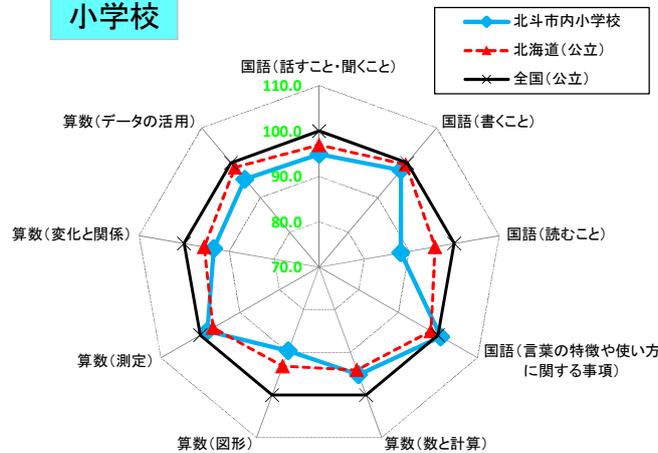
■北斗市内の状況及び学力向上策（小学校数:11校、児童数:378人）（中学校数:5校、生徒数:403人）

【教科全体の状況】

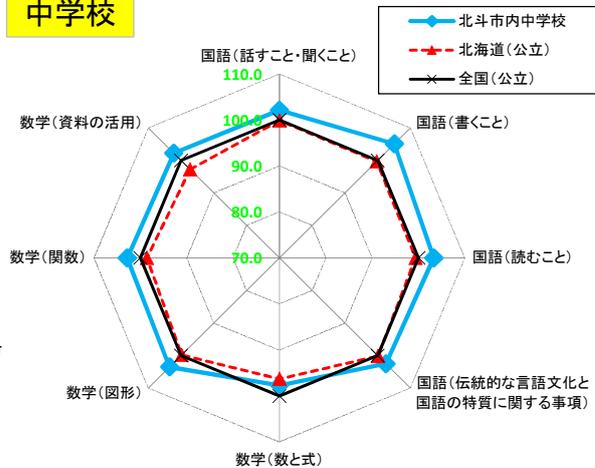
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	63	67
算数・数学	66	58

小学校

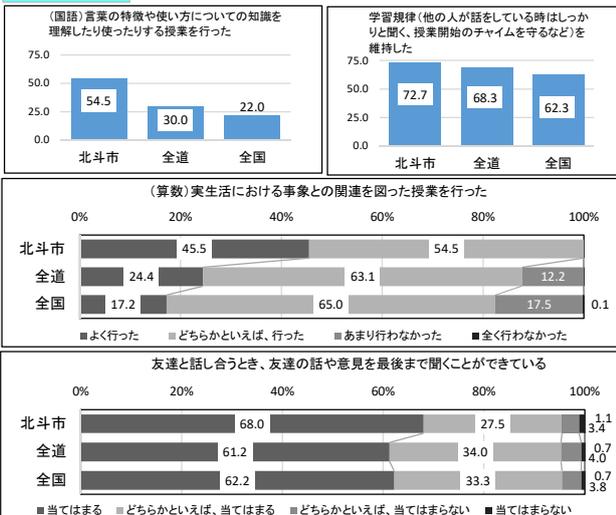


中学校

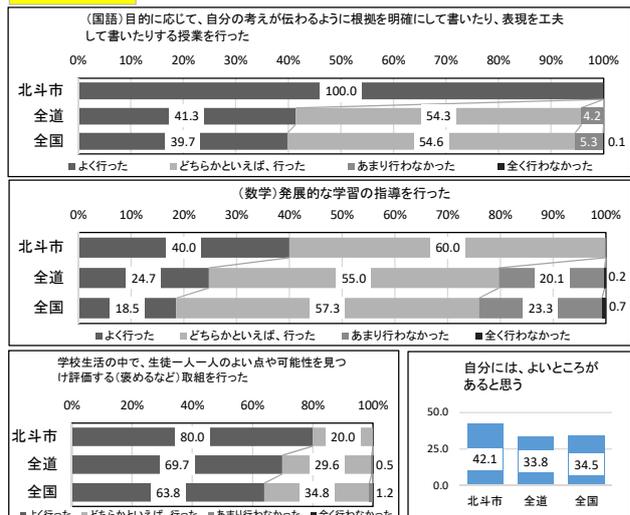


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業をよく行ったことにより、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

算数において、実生活における事象との関連を図った授業をよく行ったことにより、「数と計算」「測定」の領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

学習規律を維持したことにより、友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができていると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校

国語において、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業をよく行ったことにより、「書くこと」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、発展的な学習の指導をよく行ったことにより、「図形」「関数」「資料の活用」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する取組を行ったことにより、自分には、よいところがあると思うと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【北斗市の学力向上策】

- ◎ 1人1台端末の活用による効果的な教育活動の推進に向けた教員研修の実施
- ◎ 社会のグローバル化、超情報化時代に対応する英語教育及びプログラミング教育の充実
- ◎ 中学校区で統一した学習スタンダードの徹底及び家庭学習強化週間の設定

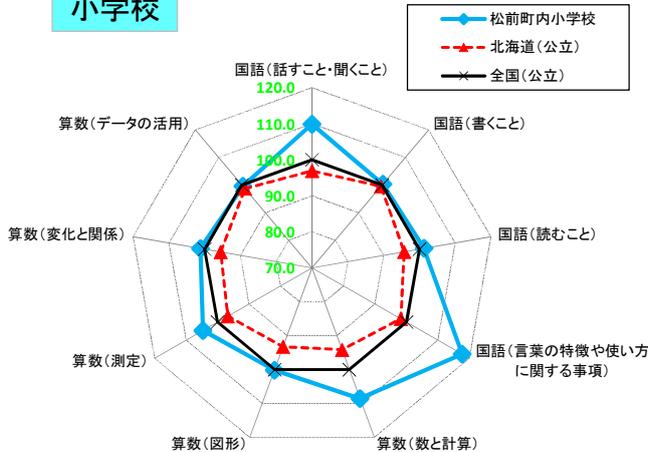
■松前町内の状況及び学力向上策（小学校数:3校、児童数:23人）（中学校数:1校、生徒数:28人）

【教科全体の状況】

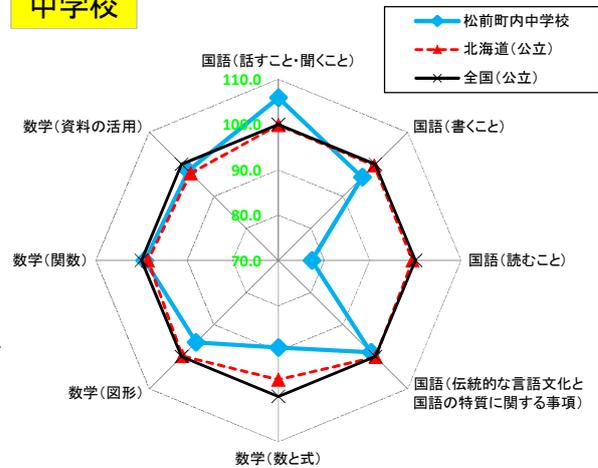
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	72	62
算数・数学	72	54

小学校

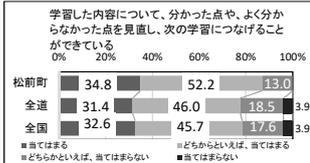
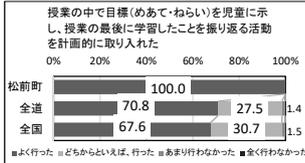
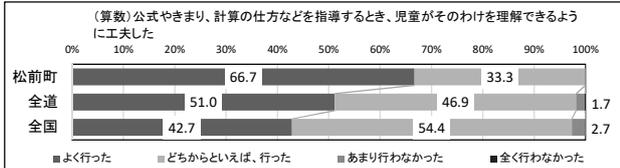
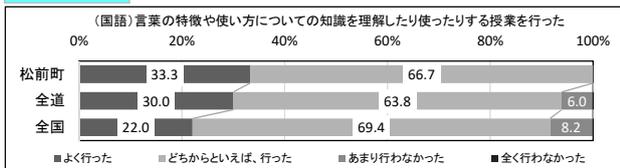


中学校

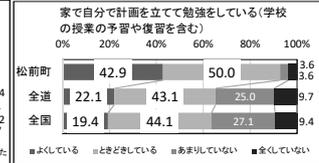
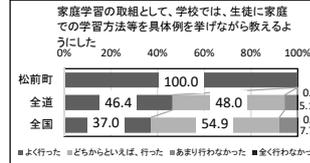
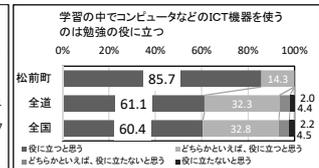
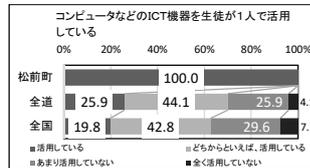
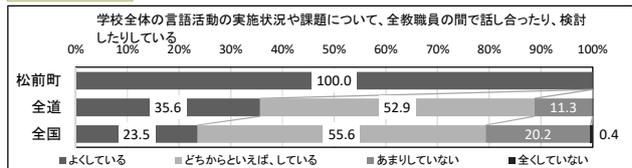


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行ったことにより、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

算数の授業において、公式やきまり、計算の仕方などを指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫したことにより、「数と計算」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

授業の中で目標（めあて・ねらい）を児童に示し、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたことにより、学習した内容について、分かった点や、よく分らなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校

学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしたことにより、「話すこと・聞くこと」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

コンピュータなどのICT機器を生徒が1人で活用する場面を多く取り入れたことにより、学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

家庭学習の取組として、生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしたことにより、家で自分で計画を立てて勉強をしていると回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【松前町の学力向上策】

- ◎ 学力向上アクションプランに基づいた教師の授業力を向上させる取組の推進
- ◎ 町内全小・中学校、地域住民と保護者が一体となった学校運営及び小中9年間の一貫した教育活動の推進
- ◎ ICT支援員によるICT機器を活用したプログラミング学習と家庭学習の充実を図る教職員への研修の実施

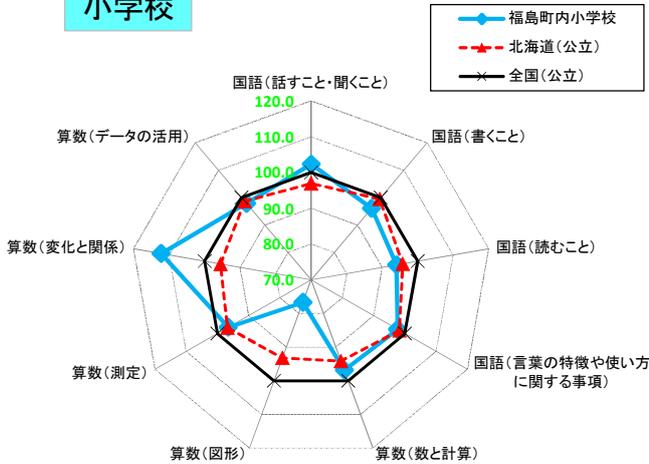
■福島町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:18人）（中学校数:1校、生徒数:20人）

【教科全体の状況】

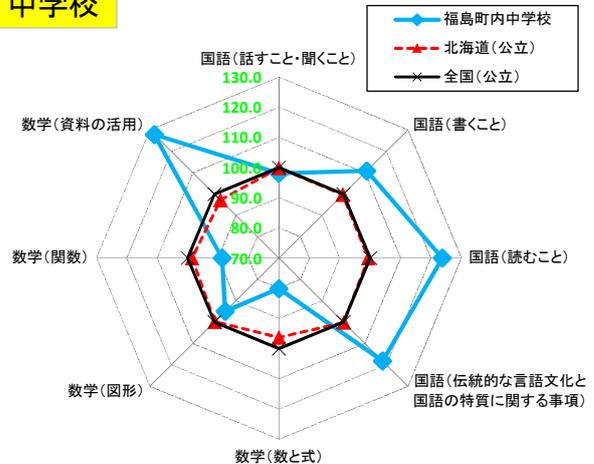
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したのもの（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	63	73
算数・数学	68	55

小学校

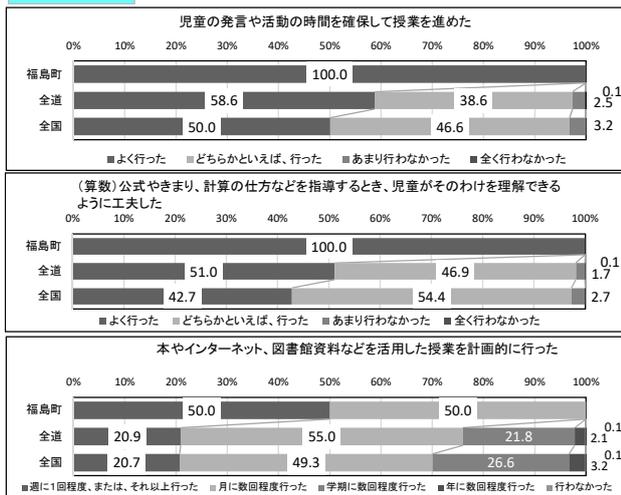


中学校

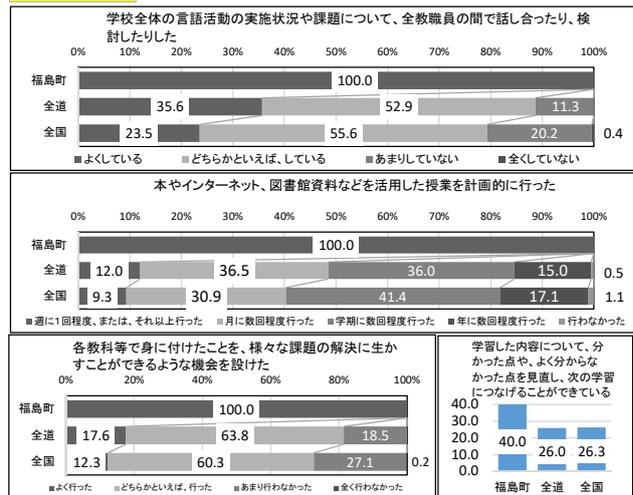


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

児童の発言や活動の時間を確保して授業を進めたことにより、国語の「話すこと・聞くこと」の領域で全国平均正答率を上回ったと考えられる。

算数の授業において、公式やきまり、計算の仕方などを指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫したことにより、「変化と関係」の領域で全国平均正答率を上回ったと考えられる。

本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行ったことにより、算数の「データの活用」の領域で全道と同程度の平均正答率となったと考えられる。

中学校

学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間でよく話し合ったり、検討したりしたことにより、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国平均正答率を上回ったと考えられる。

本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行ったことにより、数学の「資料の活用」の領域で全国平均正答率を上回ったと考えられる。

各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたことにより、学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていると回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【福島町の学力向上策】

- ◎ 「わかる授業」の実施に向けた学力向上研修会等の教員研修の実施
- ◎ 1人1台端末や大型モニター等を活用したICT教育の推進
- ◎ 小学校と中学校が連携した授業見学や授業交流、体験入学等の実施

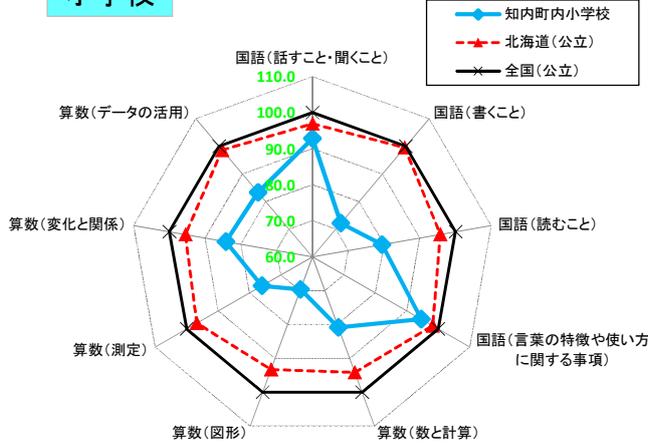
■ 知内町内の状況及び学力向上策 (小学校数:3校、児童数:24人) (中学校数:1校、生徒数:25人)

【教科全体の状況】

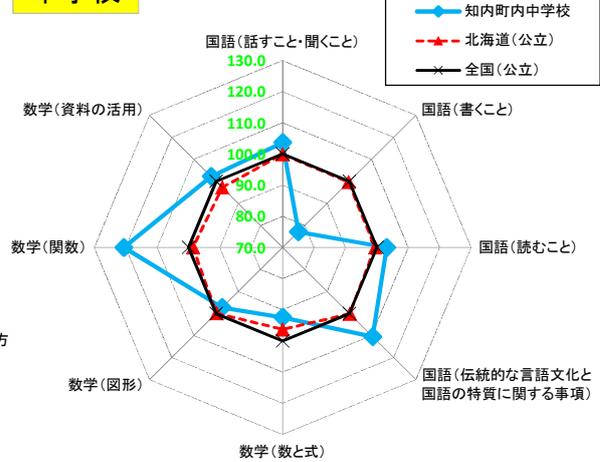
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

平均正答率	小学校	中学校
国語	57	65
算数・数学	56	58

小学校

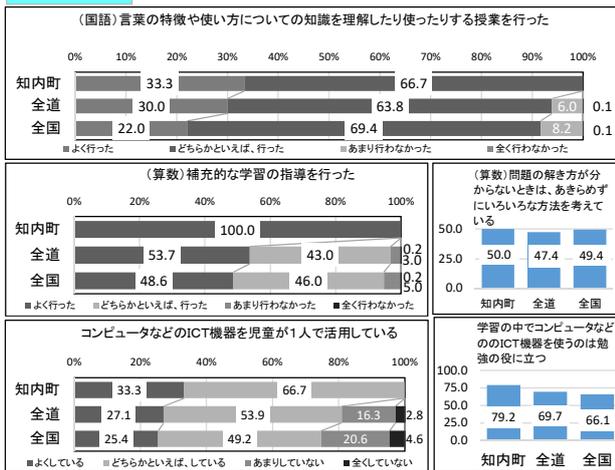


中学校

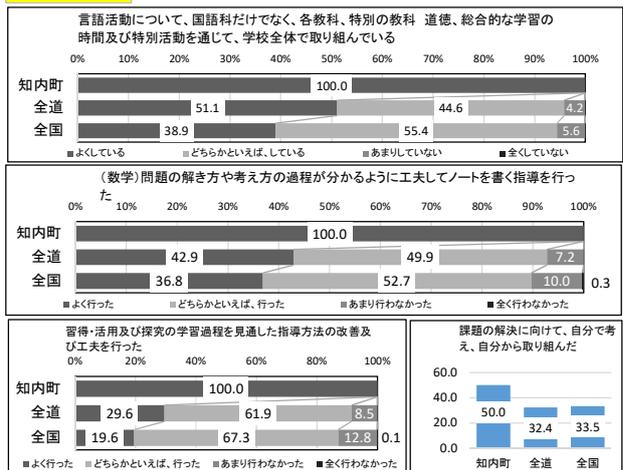


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業をよく行ったことにより、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全道と同程度の平均正答率になったと考えられる。

算数の授業において、補充的な学習の指導をよく行ったことにより、問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えていると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

コンピュータなどのICT機器を児童が1人で活用する場面を多く取り入れたことにより、学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校

言語活動について、国語科だけでなく、各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体で取り組んでいることにより、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域と「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導を行ったことにより、「関数」「資料の活用」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行ったことにより、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【知内町の学力向上策】

- ◎ 教員のICTスキル向上のためのICT支援員事業の推進
- ◎ 目指す子ども像を踏まえた、小中9年間を見通した教育課程の編成等の小中一貫教育の体制整備
- ◎ 学びの充実検討委員会を中心とした家庭・地域との連携や自己肯定感を育む学級・授業づくりなどの取組の充実

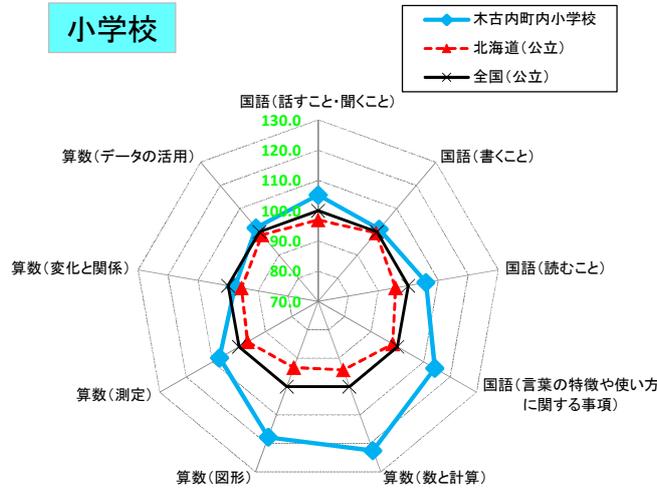
■木古内町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:22人）（中学校数:1校、生徒数:16人）

【教科全体の状況】

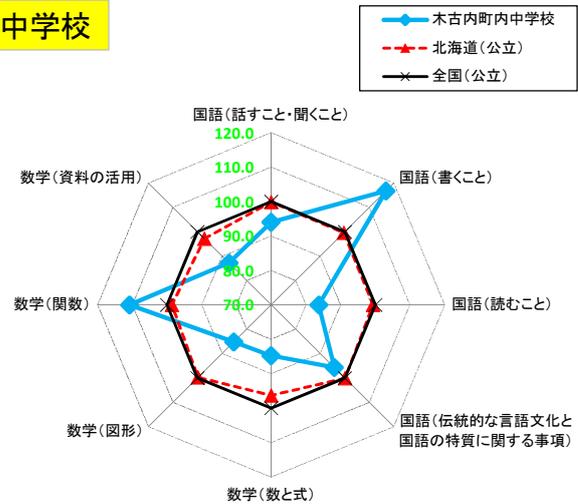
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	70	63
算数・数学	75	52

小学校

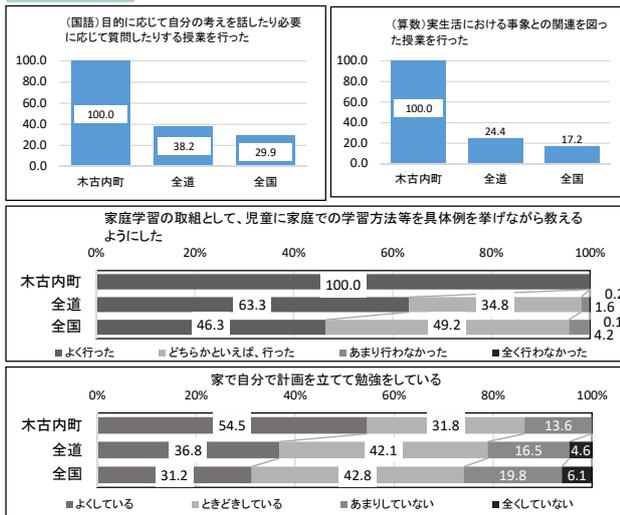


中学校

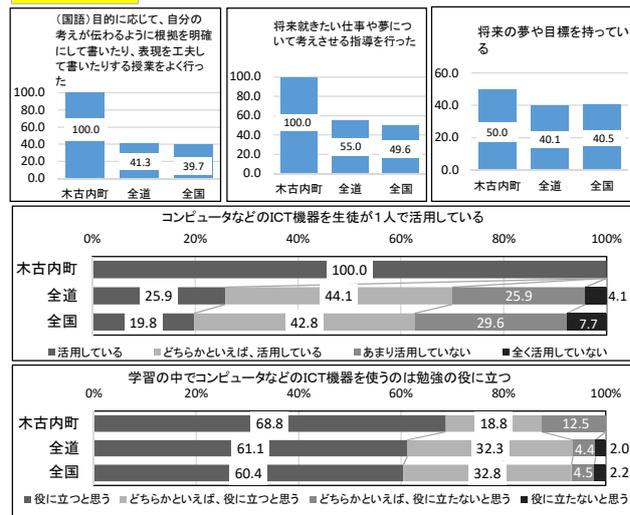


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業をよく行ったことにより、国語の全ての領域・事項で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

算数において、実生活における事象との関連を図った授業をよく行ったことにより、算数の「数と計算」「図形」「測定」「データの活用」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしたことにより、家で自分で計画を立てて勉強をしていると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校

国語において、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり、表現を工夫して書いたりする授業をよく行ったことにより、国語の「書くこと」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をよく行ったことにより、将来の夢や目標を持っていると回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

コンピュータなどのICT機器を生徒が1人で活用する場面を多く取り入れたことにより、学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【木古内町の学力向上策】

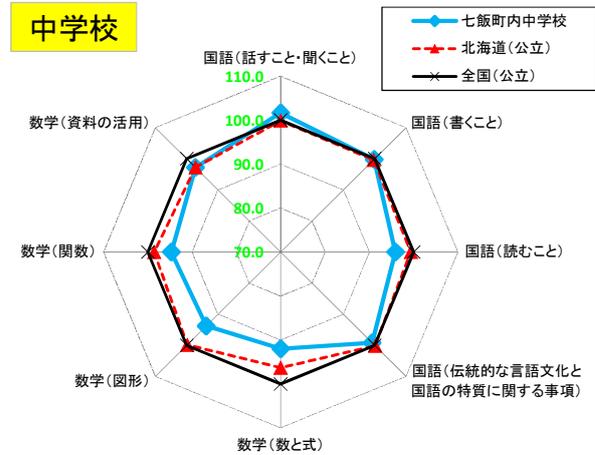
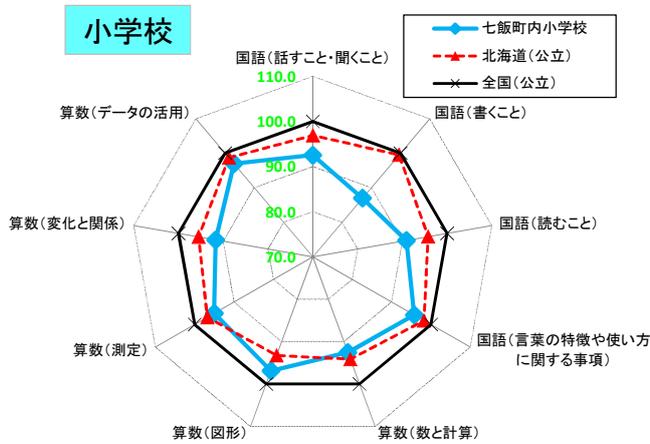
- ◎ スクールサポーターを配置し、ICTを積極的に活用した新しい生活様式の実践と授業の推進
- ◎ 道徳教育や総合的な学習の時間を中心とした、「目指す子ども像」の共有化を図った小中連携の実践の推進
- ◎ 習熟度別少人数指導やT・Tなど、学習形態の工夫による「分かる・楽しい・力のつく」授業づくりの推進

■七飯町内の状況及び学力向上策（小学校数:5校、児童数:231人）（中学校数:4校、生徒数:194人）

【教科全体の状況】

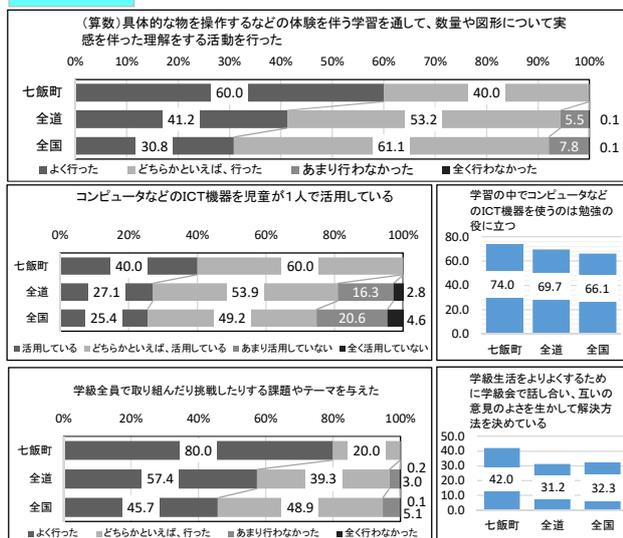
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものの（市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	60	64
算数・数学	66	54

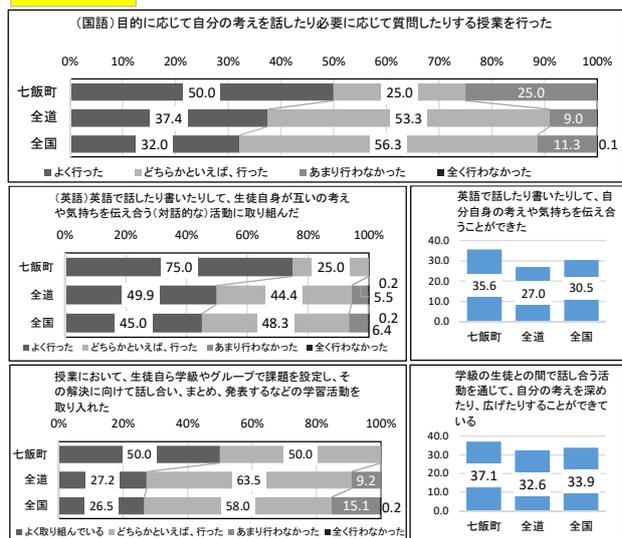


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

算数の授業において、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行ったことにより、「図形」の領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

コンピュータなどのICT機器を児童が1人で活用する場面を多く取り入れたことにより、学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマをよく与えたことにより、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校

国語において、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、「話すこと・聞くこと」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

英語の授業において、英語で話したり書いたりして、生徒自身が互いの考えや気持ちを伝え合う活動を取り入れたことにより、英語で話したり書いたりして、自分自身の考えや気持ちを伝え合うことができていると回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、発表するなどの学習活動を取り入れたことにより、学級の生徒との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【七飯町の学力向上策】

- ◎ 学校のICT環境の整備・強化と1人1台端末の効果的活用について協議する代表者会議の設置
- ◎ 各学校の重点教育目標の達成に向けて9年間の学びの連続性を踏まえた特色ある教育課程の編成・実施
- ◎ 「七飯町小中高英語教育連携協議会」による小学校外国語科・外国語活動の充実及び中高が連携した指導の充実

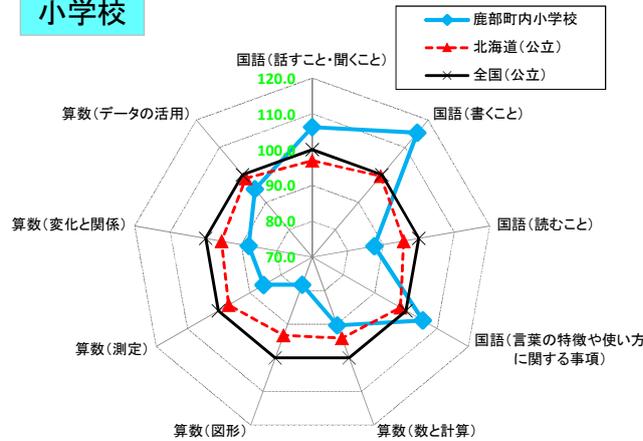
■鹿部町内の状況及び学力向上策（小学校数:1校、児童数:25人）（中学校数:1校、生徒数:26人）

【教科全体の状況】

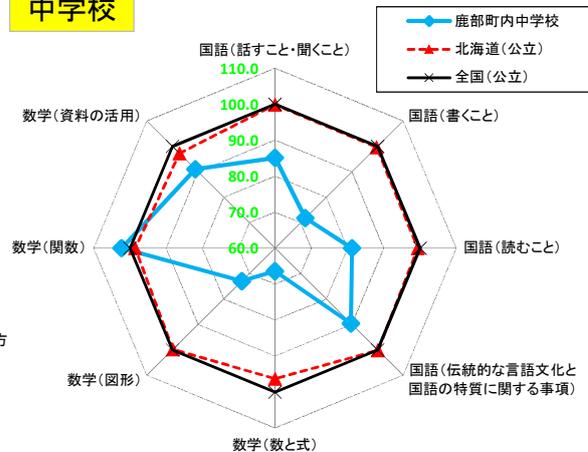
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	67	54
算数・数学	63	46

小学校

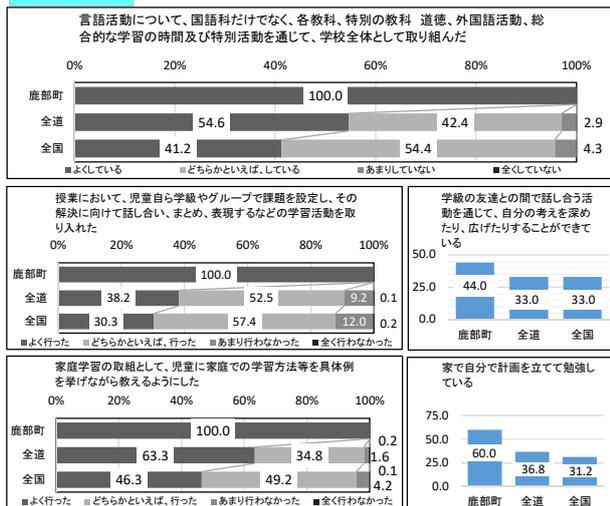


中学校

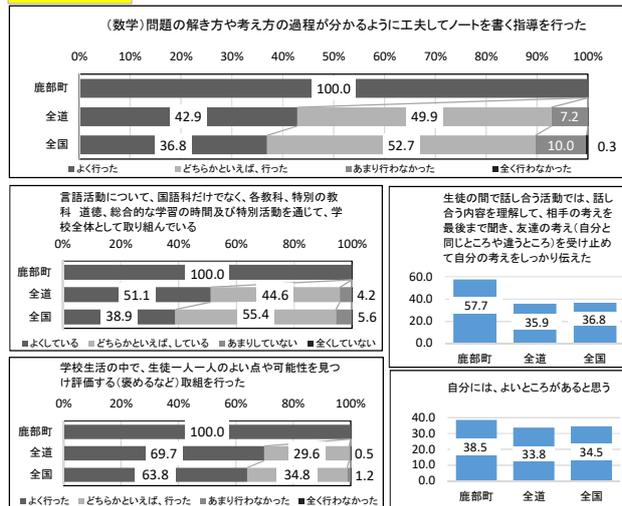


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

言語活動について、国語科だけでなく、各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んだことにより、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域及び「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

家庭学習の取組として、児童に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしたことにより、家で自分で計画を立てて勉強していると回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校

数学の授業において、問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導を行ったことにより、「関数」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

言語活動について、国語科だけでなく、各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んだことにより、生徒の間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考えを受け止めて自分の考えをしっかりと伝えた生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する取組をよく行ったことにより、自分には、よいところがあると思うと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【鹿部町の学力向上策】

- ◎ 高速通信ネットワーク環境の構築による1人1台端末を適切に活用した学習活動の充実
- ◎ 「『社会に開かれた教育課程』の実現を目指した幼小中の連携」に向けた鹿部町教育研究所の取組の推進
- ◎ 「第3次鹿部町子ども読書推進計画」に基づく、児童生徒の読書習慣の定着に向けた環境整備

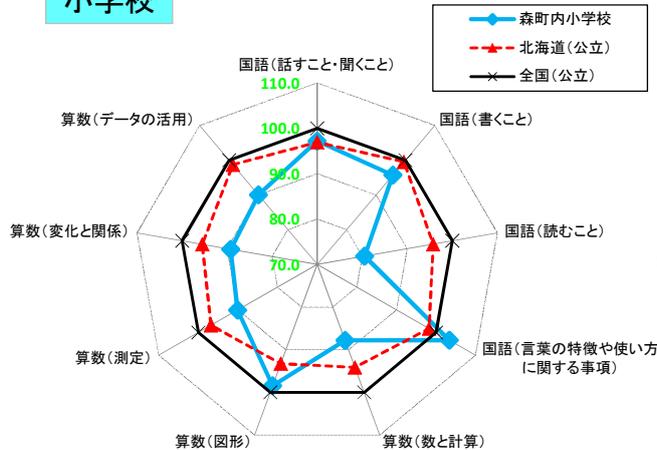
■森町内の状況及び学力向上策（小学校数:5校、児童数:93人）（中学校数:2校、生徒数:99人）

【教科全体の状況】

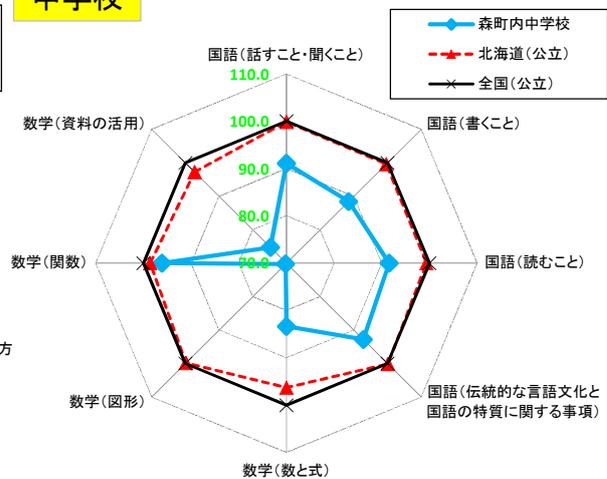
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	63	59
算数・数学	64	46

小学校

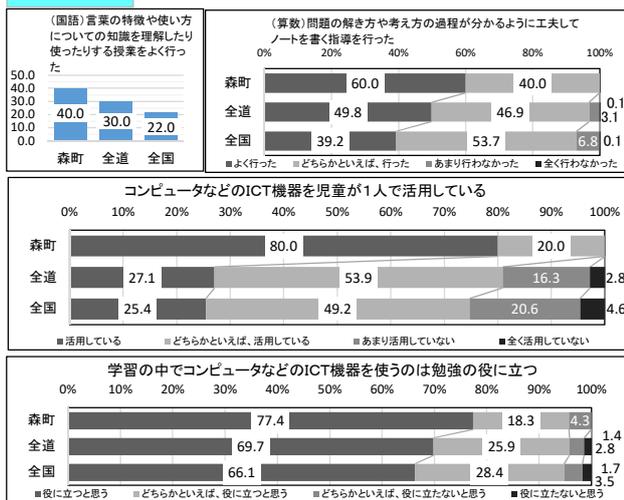


中学校

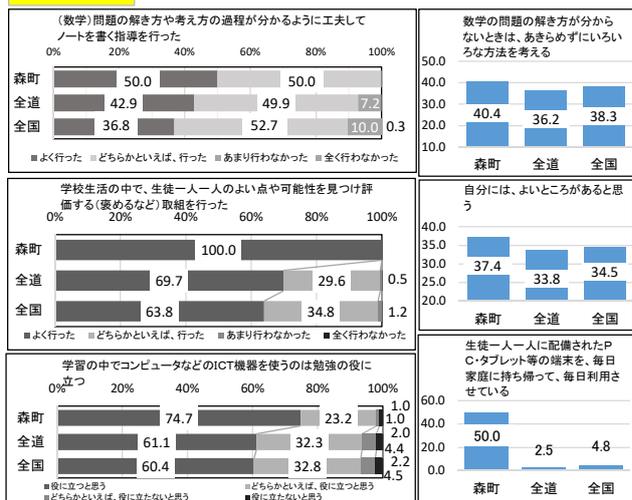


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業をよく行ったことにより、国語の「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

算数の授業において、問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導をよく行ったことにより、算数の「図形」の領域で全道の平均正答率を上回ったと考えられる。

コンピュータなどのICT機器を児童が1人で活用する場面を多く取り入れたことにより、学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校

数学の授業において、問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導をよく行ったことにより、数学の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えると回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する取組を行ったことにより、自分には、よいところがあると思うと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

生徒一人一人に配備されたPC・タブレット等の端末を、毎日家庭に持ち帰って利用させたことにより、学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【森町の学力向上策】

- ◎ 1人1台端末を活用した児童生徒の情報活用能力の育成や協働的な学びの実現等に向けた教員研修の実施
- ◎ 基礎的な読解力の育成を軸とした学力向上と学習・生活規律の確立を両輪とした森町小中一貫教育の推進
- ◎ 図書館司書との連携による本に親しむきっかけづくりや自ら学ぶことができる図書環境の整備

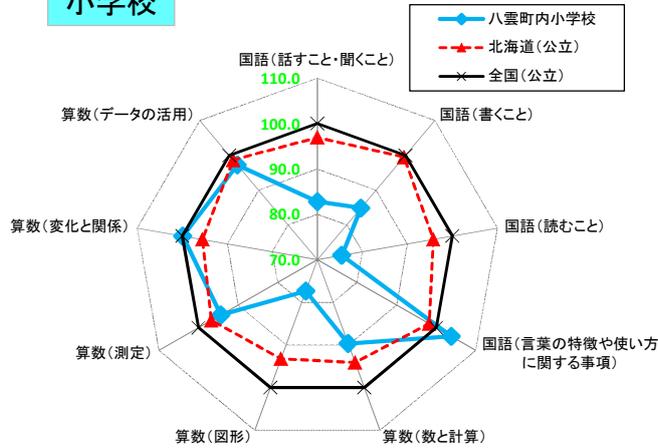
■八雲町内の状況及び学力向上策（小学校数:6校、児童数:102人）（中学校数:4校、生徒数:122人）

【教科全体の状況】

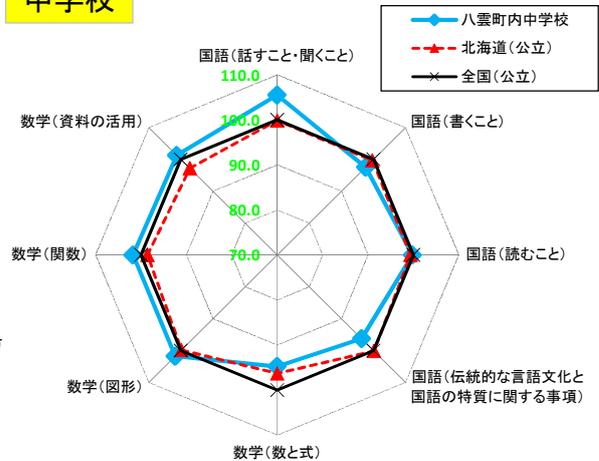
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	59	64
算数・数学	65	57

小学校

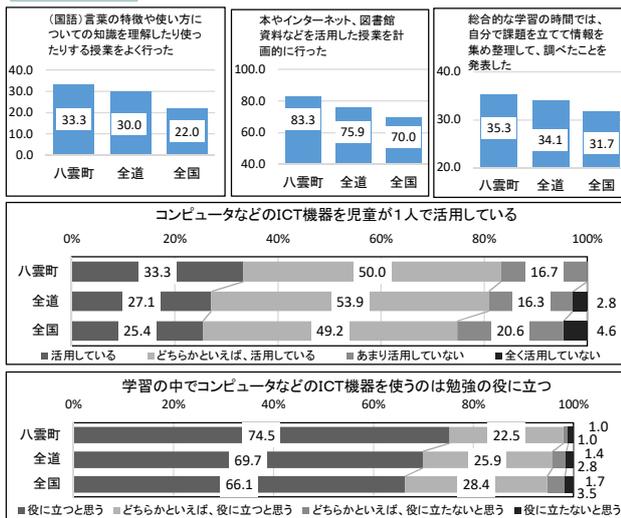


中学校

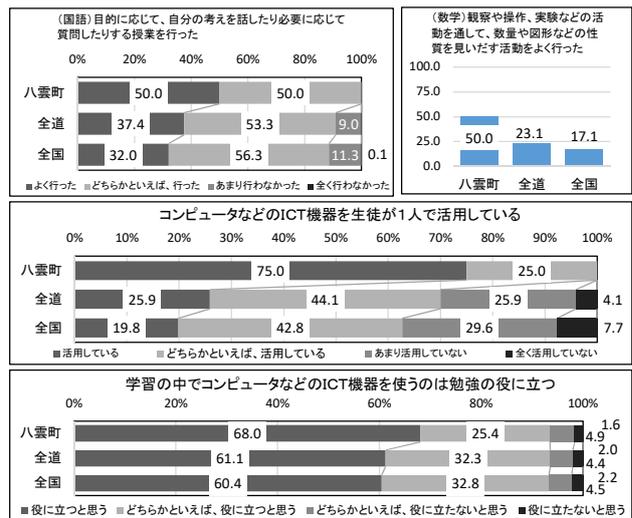


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業をよく行ったことにより、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

コンピュータなどのICT機器を児童が1人で活用する場面を多く取り入れたことにより、学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行ったことにより、総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する学習に取り組んだと回答した児童の割合が全国を上回ったと考えられる。

中学校

国語において、目的に応じて、自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業をよく行ったことにより、「話すこと・聞くこと」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

数学の授業において、観察や操作、実験などの活動を通して、数量や図形などの性質を見いだす活動をよく行ったことにより、「図形」「関数」「資料の活用」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

コンピュータなどのICT機器を生徒が1人で活用する場面を多く取り入れたことにより、学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【八雲町の学力向上策】

- ◎ 小・中学校を円滑に接続する義務教育9年間を一つのもちまりとして捉えた教育課程の編成
- ◎ 児童生徒一人一人の読解力向上とICTを活用した学習の指導力向上を図る教員研修の実施
- ◎ 各学校における高速大容量のネットワークや全端末へのLTE回線導入による通信環境の有効活用

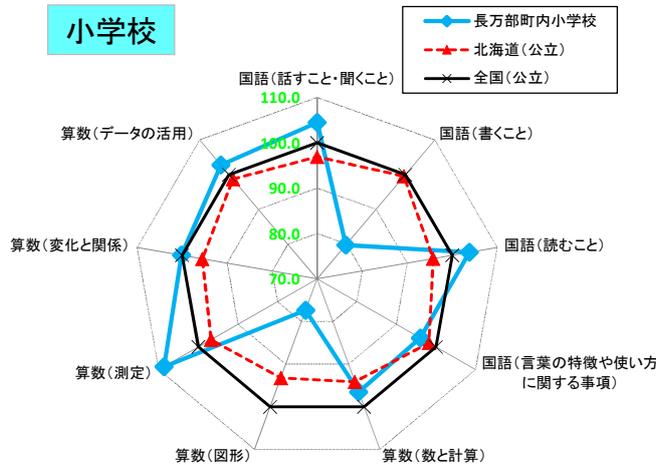
■長万部町内の状況及び学力向上策（小学校数:2校、児童数:32人）（中学校数:1校、生徒数:24人）

【教科全体の状況】

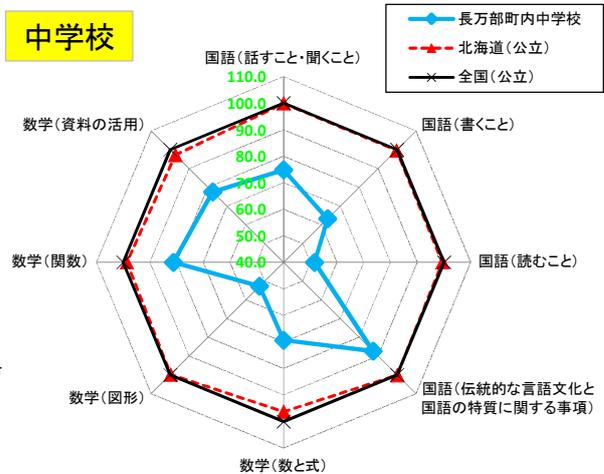
教科の領域等別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

平均正答率	小学校	中学校
国語	63	46
算数・数学	68	40

小学校

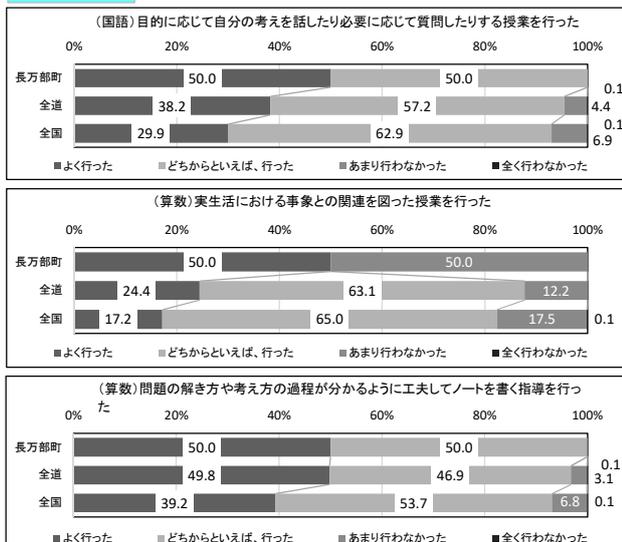


中学校

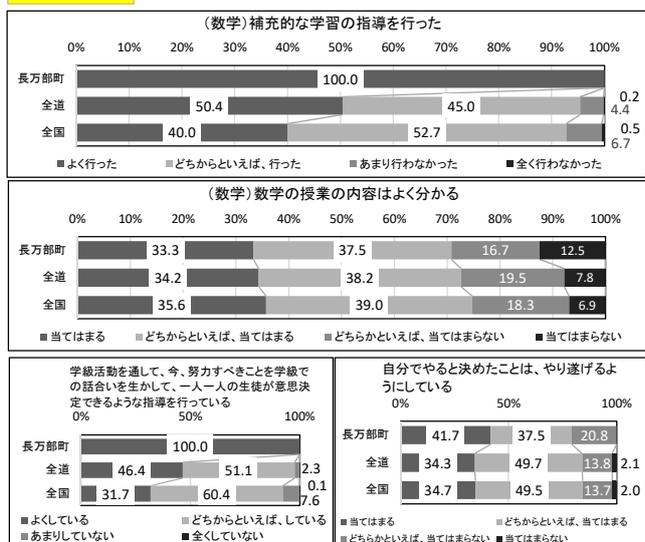


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校

国語の授業において、目的に応じて自分の考えを話したり必要に応じて質問したりする授業を行ったことにより、「話すこと・聞くこと」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

算数の授業において、実生活における事象との関連を図ったり、問題の解き方や考え方の過程が分かるように工夫してノートを書く指導を行ったりしたことにより、「測定」「変化と関係」「データの活用」の領域で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。

中学校

数学の授業において、補充的な学習の指導を行ったことにより、数学の授業の内容はよく分かったと回答した生徒の割合が全国と同程度となったと考えられる。

学級活動を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の生徒が意思決定できるような指導を行ったことにより、自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしていると回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。

【長万部町の学力向上策】

- ◎ 学校の教育活動の更なる充実を図る幼・小・中・高・大学連携を推進するための長万部教育連携会議の開催
- ◎ 家庭学習の習慣の定着と読書活動の取組の推進
- ◎ 教職員のICT機器の操作等に係るスキルアップ支援及び1人1台端末を効果的に活用した教育活動の推進